

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	あいの街篠ヶ瀬 西ユニット(A)		
所在地	浜松市東区篠ヶ瀬町345		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町村受理日	令和6年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2277102188-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 10月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じて頂けるように行事を多く取り入れています。春のお花見、夏祭り、秋の納涼祭、クリスマス会、お正月、豆まき 施設内には四季の物を飾り1年の流れをより一層身近に感じて頂けるように努力しています。時間の許す限り個別ケアを取り入れています。毎日お散歩を欠かさないご利用者様、時間を見て太陽に当たったりお隣まで歩いたり衣食住だけの満足では、より充実したものになるようにと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、店長会議にて法人内事業所との意見交換・情報共有を図っている。管理者は、職場会議やミニカンファ、朝礼等により、職員との意見交換と情報共有を図っている。事業所周辺の散歩や庭越しでの挨拶など、地域住民とのつきあいを続けてきた。毎月担当職員のコメントと写真を載せた「あいの街篠ヶ瀬」便りを家族へ送り、利用者の暮らしぶりを伝えている。家族の希望に合わせた対応を心掛け、玄関先面会や季節行事(秋祭り・クリスマス会など)の家族の参加を呼びかけ、関係継続を積極的に支援している。法人・管理者は、年2回の個人面談、提案ノートや法人研修報告など、職員からの意見の聴き取りや資質向上の仕組みを整えている。職員は、差し入れの花や季節の飾りを工夫して、くつろげる共有空間作りを心掛けている。常時換気と温度管理、定期的な清掃と消毒(午前2回、午後3回)により、感染防止・衛生に配慮した環境作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼をし毎日社是や理念を皆で提唱している。	管理者は、毎月1回、店長会議にて法人内他事業所との意見交換・情報共有を図っている。事業所では、会議記録を全員に配布し、職場会議やミニカンファ等により、職員との情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑にいるお隣さん又は庭越しのお隣さんとお話ししたり散歩で近所を回ったり、運営推進会議に参加して頂いたりしている。	コロナ禍による制限がある中でも、事業所周辺の散歩や庭越しでの挨拶など、地域住民と交流を続けてきた。花・野菜を届けてもらったり、回覧板や祭り参加の呼びかけ等、日常的な交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に見られた方に対応、又老人会への協力で他施設を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の状況又施設の状況を報告したり、相談に乗って頂いている。又得た情報を活用している。	コロナ禍の折にも書面開催にて、2か月に1回継続して実施してきた。今年6月より対面で開催し、市・地域包括支援センター職員、自治会長・民生委員の参加がある。委員からの意見は議事録にまとめて全職員が共有し、事業所運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき事業所の実績取り組みについて協力頂いている。	運営推進会議における意見の聴き取りや浜松市GH連絡協議会への参加など、事業所運営について、常に相談することができる。法人本部とも連携しながら、協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を毎年行い又毎朝の朝礼時報告相談を受けてその都度伝えている。	2か月に1回、運営推進会議開催時に「身体拘束適正化委員会」を行い、施設内自己点検と事例検討を続けている。指針・マニュアルを整え、年2回法人職員研修や毎朝礼時にも状況確認を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて話し合いその都度注意指導がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて勉強、成年後見人を立てている人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず重要事項、契約書の説明をし、変更がある時には、説明をして同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には生活の中で意見を聞き、家族においては面会時又は運営推進会議にて意見要望をお聞きして反映させている。	毎月「あいの街篠ヶ瀬」にて担当職員のコメントを添えた写真を家族へ郵送し、事業所での利用者の暮らしぶりを伝えている。玄関先面会等、家族の希望に合わせた対応を心掛け、面会の折には、家族との意見交換に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々朝礼の中で意見提案を出し合っている。又月1回の会議にも要望等出している。	月1回の職場会議や朝礼の際、職員との情報共有と意見交換を図り、職員からの意見の吸い上げに注力している。年2回の個人面談、提案ノートや毎月行う法人研修報告など、職員からの意見や提案を聴き取る仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。有休、希望休の確認、施設長会議にても習得させるよう連絡を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修又は外部研修への参加、日々の中で気が付いた事は伝えていく。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加、会社内外の同業者、介護事業者との交流をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は寄り添い傾聴する時間をより多く持ち、本人が孤立しないよう又他の利用者と協調出来るよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、必ず時間を作り要望又は困難な事をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時様子観察している。その都度職員間で共有、問題点があれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者は信頼関係にあり共に楽しみ、共に過ごし安心と安全な生活が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは良好な関係が築けるよう折に触れ話をしイベント、運営推進会議への参加に協力して頂き、共にご利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の部屋には馴染みの物を置き、家族知人には積極的に施設の集まりに参加してもらっている。	コロナ禍により面会の機会は減っているが、電話の取次ぎや、毎月写真を添えたお便りを活用して利用者の様子を伝え、関係継続を心掛けている。事業所で行う季節行事(秋祭り・クリスマス会など)には、家族の参加を呼びかけ、積極的な支援に努めている。	

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご利用者全員の状態を把握し、流動的に関わり		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去退去した家族から紹介頂いたり、お亡くなりになった時にもご連絡をもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で希望等あればお聞きし共有する。又気づきがあれば残し、職員で共有し出来ることは叶えてあげる。	管理者とケアマネジャーは、入居時に利用者や家族の思いや意向を聴き取り、アセスメントシートやフェイスシートを活用して情報を共有している。入居後は特に注意して観察・傾聴に努め、利用者・家族の意向に沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、フェイスシートにて聞き取った事を常に確認し、共有間違いがあれば正していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化に気付くと共に支援経過に記録し共有、現状に合ったサービスに変えていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の中や朝礼の中で変化に機敏に反応出来るよう共有している。時に家族、医師とも相談共有いただき対応している。	管理者・ケアマネジャーは、ミニカンファ・朝礼時の話し合いや連絡ノートにより、職員との情報共有を図りながら、モニタリングに繋げている。生活管理表・支援記録に記録された情報を共有し、利用者の変化に応じた計画作成や見直しを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活管理表、支援記録に記録又医師からの助言、記録等も共有し実践、介護計画の見直しをしている。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者がいつもベストの状態で見られるよう関係各署とも連絡をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園、町内のお宮、花畑、ボランティア、周りの方々の情報を頂きながら活用していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員往診医であるが、受診時には連絡等支援している。	協力医による月2回の訪問診療と週1回看護師の訪問により、利用者の健康を管理している。他科受診等の通院では、家族協力のもと、協力医・看護師との情報共有を図りながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1にて来施、情報の共有又はアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	全員往診医であり、情報の共有が出来又早い段階で予防処置もとってもらえる。長い入院もあまりなく良い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族と連絡を取り、状況把握をして頂いている。その中で本人に一番良い方法をチームにて支援していきたいと思っている。	看取りの指針を整え、入居時に事業所での対応を説明して、利用者・家族の同意を得ている。急変時には医師と共に再度家族の意向を確認し、家族の希望に沿って対応している。管理者・職員は、定期的に法人看護師による研修を行い、適切な支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法、対応は常に研修しており、緊急連絡はわかりやすい位置に貼っている。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、自治会の協力も得て防災、火災訓練を定期的に行っている。	災害対策訓練は、6月と11月、年2回テーマを決めて実施し、実施後は課題を整理している。自治会や地域住民と協力した訓練を行っている。備蓄品は、停電対応のランタンや水、レトルト食品を、法人本部と協力しながら備えている。	訓練実施により得た課題は、次回訓練へ継続されて改善することが重要なことから、継続した訓練計画の実践を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、事業所と地域住民との連携を含めた計画の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシー確保、人格の尊重をし朝礼時確認共有している。	個人情報保護や写真掲載について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。法人と管理者は、接遇マナー・コミュニケーション技術に関する定期的な研修や職員間での話し合いを行い、利用者・家族に配慮した接遇や声掛けを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には傾聴し、支援していく。希望の表出を見逃さず希望に添える事は協力していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、アクティビティー、起床、散歩許す限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る決定は自分でして頂き、その人らしく身だしなみがきちんと出来るよう支援していく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく出来るように意見を聞いたり試食して頂く。	配食サービスを利用しながら、ご飯・味噌汁を手作りして、利用者の好みに応じた食事提供を実践している。行事食や手作りおやつのお機会を設け、食事を楽しむ工夫を心掛けている。利用者の残存能力に応じて、共に準備や片づけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援経過記録、生活管理表にて把握し勉強、個々に合った食事の提供をしている。希望する時間に水分補給をして頂く。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして汚れ匂いが無いようにしている。人により歯科医に往診、口腔ケアもして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表にて健康状態を把握して排泄リズムを確認し支援している。	タブレットを利用して「生活管理表」を記録し、職員全員が利用者個々の排泄パターンを確認することができる。定期的な声掛けなどによりトイレ利用を促し、利用者の状態に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動を心掛け、食事をキチンと摂り排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日やタイミングは常に柔軟に対応している。場合によっては清拭、足浴をしている。	週2回、午前中を目途に、利用者の希望や状態に配慮しながら入浴を支援している。安全・安心に配慮した二人介助・同性介助や足浴を利用して、利用者が気持ち良く入浴できるように、工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に睡眠が取れるよう日中、アクティビティー、散歩を取り入れた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤嚥防止に努め体調変化に注意し的確な服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、洗濯干し、畳、掃除などその人の楽しみ方、役割を持てるように支援していく。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、イチゴ狩り、ドライブ、公園までの散歩など、四季を通し外出支援している。	コロナ禍で中断していた花見やイチゴ狩りに出掛けることができた。利用者個々の希望を聞きながら、事業所周辺の散歩など気軽に外出して外気浴ができるよう、工夫しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人によりお金の所持をしている。お出かけ時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りをしているため、葉書を用意したり、ポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓、天窗を開け風を入れたり、エアコンを使って調節、また季節の飾り物をして四季を感じてもらっている。	常時、換気をしながら、エアコンを使った温度管理と定期的な消毒(午前2回、午後3回)により、感染防止・衛生に配慮した環境作りに努めている。職員は、差し入れの花や季節の飾りを工夫して、利用者がくつろげる共有空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋に入ったり、雑誌やチラシを見たりして一人でも時間が過ごせるようにしたり、2ユニット一緒に過ごしたりしてご利用者様同士団らんしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものを身近に置き自身の空間作りをしている。又ご利用者様と職員が一緒に季節を感じられるような工夫をしている。	クローゼット・洗面台を備えた居室には、入居前に利用していた馴染みの品を置き、利用者好みの空間作りを心掛けている。居室担当職員は家族の協力を得ながら衣替え等を行い、個々の暮らしぶりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、補助棒を使用し安全に気を付けている。人によっては目印などを使い、自立した生活が出来るように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	あいの街篠ヶ瀬 東ユニット(B)		
所在地	浜松市東区篠ヶ瀬345		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町村受理日	令和6年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102188-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じて頂けるように行事を多く取り入れています。春のお花見、夏祭り、秋の納涼祭、クリスマス会、お正月、豆まき 施設内には四季の物を飾り1年の流れをより一層身近に感じて頂けるように努力しています。時間の許す限り個別ケアを取り入れています。毎日お散歩を欠かさないご利用者様、時間を見て太陽に当たったりお隣まで歩いたり衣食住だけの満足では、より充実したものになるようにと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼をし毎日社是や理念を皆で復唱している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りで地域の方と交流したり、利用者と散歩の際挨拶したり声をかけて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	祭り、会議、相談等に来られた時、ご利用者と触れ合ってもらったり、何時でも施設内は解放して中に入ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者、施設の状況説明をし入所者に変化がある時は、相談したりされたりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回出席いただき、状況説明をイベント時の連絡を受けたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修は毎年必ず行い、朝礼時にも細かい連絡を受けたり伝えたりしている。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行う。日々の中で注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて勉強している。後見人制度を活用している人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず重要事項、契約書の説明をし、変更時には説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々朝礼の中で意見提案を出し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時、会議時意見交換し反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休の取得、又希望休を出し合い融通をしてお互い助け合っている。又時間内で終われるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講又ステップアップのため社外研修をしたり本社からトレーニングに来ることもある。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加、組合活動への参加にて同業他社と触れ合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には寄り添い安心して生活出来るよう家族と相談しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時必ず家族と会い、要望又は困難な事をお聞きし、何時でも施設に来ていただけるような関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	キッチンと家族と話し合いを持って、家族が不安なくご利用者を託せるよう対応につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間の許す限り共に楽しんだり安心な生活が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは良好な関係が築けるよう折にふれ話をし、イベント、運営会議への参加に協力いただいている。また篠ヶ瀬便り等でも連絡を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物に囲まれて過ごされ、又折に触れお電話されたり、来て頂いたりしている。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に流動的に関わり合えるようユニットを行ったり来たりし席も工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族の紹介で入所された方や入所している家族の紹介で入られる方がいる。その方たちの所に対処された方訪ねてくれる時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から聞き取って職員が共有している。困難な場合にも優先して考えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの確認、又ご家族等から再度聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化しているので経過記録、朝礼での引継ぎ、生活管理表にて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、医師、看護師職員が共有し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活管理表、経過記録朝礼時の情報共有にて柔軟に見直している。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを常に頭に置いて一人一人がより生活しやすいよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、お宮、幼稚園地域の方と共に資源活用しご利用者がより豊かに生活出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在全員が往診医であるが、必要に応じて、眼科、総合病院、皮膚科等に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一にてナースが施設内に来て体調管理を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	全員が往診医であり入退院時すべて共有している。24時間体制で協力して頂ける体制作りはできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に情報は共有できるように折に触れ伝えていく。体調変化をご利用者家族が把握していないという事はない。終末期を施設内で迎える方の方が多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間ホーム長はTEL対応できるようにしている。応急手当、初期対応の訓練もし、24時間ドクターとも連絡取れる。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力、指導の元、年に2回防災訓練や火災訓練をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務に基づきプライバシー保護をしている。研修にて接遇マナーについて勉強し実践に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出を見逃さないように職員間で共有し本人の希望に添えるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人一人のペースに沿ったケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る方は支援し、自己決定出来ない方は、ご家族等にも協力いただき支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや嚥下状態を把握し食事を楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活管理表を基に栄養状態をの把握をし出来るだけ自己摂取出来るよう工夫し医師にも協力いただいている。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしている。又歯科医にも往診いただきアドバイスをもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員がトイレにて排泄している。自立できている方以外は個々のパターンを理解しその方に合った排泄をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量の摂取とその方の排泄パターンを理解し、医師にも協力いただき予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に添った入浴をしている。場合によっては、足浴、シャワーもしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のリズムが出来るように工夫している。その方に合ったリズムで出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を2名の職員で行い誤薬防止に努めている。小さな変化も見逃さないよう医師との連携もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、洗濯畳み、出来る事を日々の中でして頂き、お散歩、歌など楽しんでいる。		

静岡県(グループホームあいの街篠ヶ瀬)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望を大事にし、職員と散歩に出かけたり、家族と外出したり又地域の方とおしゃべりしたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人により所持している。又希望の物があれば一緒にお買い物に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日電話している方、電話いただいている方又必要に応じて掛けられる方がいる。お手紙を頂くこともあり、職員の手を借りてお出しする方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日朝夕に清掃を行い居心地の良い空間づくりに努めている。空気の入替え、季節を感じられる壁面づくり等、なるべく文化的な居心地の良い居住空間が出来るよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分においてもリラックスして楽しめるよう又気の合った利用者同士が思い思いに過ごしたり好きな場所に移動出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具道具に囲まれ、安心安全に生活出来るよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、補助棒の活用により安全に安楽に生活出来るよう工夫している。人によっては目印などを使い、職員に頼らず自立した生活出来るよう工夫している。		